

# R3 年度不開講

## 臨床腫瘍学V

### Clinical Oncology V

単位数：5単位

○丸山理留敬 教授：器官病理学                      秋山 恭彦 教授：脳神経外科学  
荒木亜寿香 准教授：器官病理学

#### 1. 科目の教育方針

臨床腫瘍学Vでは、腫瘍診断と治療の最新知見について学ぶ。

#### 2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 腫瘍診断に関する諸問題を病理学的側面から理解する。
- 2) 腫瘍の早期診断学を理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 腫瘍の早期診断に有用な腫瘍マーカーを抽出することができる。
- 2) 超音波検査が早期診断に有用な腫瘍をリストすることができる。
- 3) 乳腺良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴と鑑別点を病理形態学的に理解する。
- 4) 乳腺細胞診と組織診の診断基準を理解する。
- 5) 最新の放射線治療について説明できる。
- 6) 腫瘍の診断に有用な細胞遺伝学的手法を理解する。
- 7) 脳腫瘍の診断と治療の問題点について説明ができる。

#### 3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

#### 4. 成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率（2/3以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

#### 5. 使用テキスト・参考文献

- 1) Rosen's Breast Pathology, 4<sup>th</sup> edition, Wolters Kluwer/Lippincott Williams & Wilkins, 2014
- 2) Modern Pathology, Nature publishing group
- 3) American Journal of Surgical Pathology, Lippincott Williams & Wilkins
- 4) STEM CELLS, John Wiley & Sons

- 5) Cell Stem Cell, Elsevier
- 6) Practical Surgical Neuropathology: A Diagnostic Approach, 2nd Revised edition, Elsevier
- 7) M. R. Nucci & E. Oliva. Diagnostic Pathology: Gynecological, 2nd ed. ELSEVIER, 2019

## 6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	脳腫瘍における遺伝子異常とその臨床的意義	未 定
2	脳腫瘍幹細胞	未 定
3	脳腫瘍治療の最前線	未 定
4	乳腺細胞診の現状と問題点	未 定
5	乳房画像診断と病理診断の対比	未 定
6	乳腺の病理診断の現状と今後の課題	未 定
7	腫瘍の病理診断における免疫染色の応用	未 定
8	腫瘍の分子病理診断の現状と問題点	未 定
9	腫瘍診断における細胞診	未 定
10	脳腫瘍の画像診断と問題点	秋山 恭彦
11	脳腫瘍手術における問題点	秋山 恭彦
12	脳腫瘍患者の QOL についての問題	秋山 恭彦
13	卵巣腫瘍における免疫染色の有用性と問題点	未 定
14	がんゲノム医療と婦人科腫瘍	未 定
15	脳腫瘍の新 WHO 分類と分子病理診断	荒木亜寿香
16	小児の脳腫瘍病理診断	荒木亜寿香